

<ご参考>

■江崎グリコの原点はグリコーゲンとの出会い

創業者の江崎利一は1919年（大正8年）、牡蠣の煮汁からグリコーゲンを採取。病気の予防に役立てようと考え、子供の体力・健康づくりを目的としてグリコーゲンを加えた栄養菓子「グリコ」を誕生させました。これが社名の由来でもあります。

■江崎グリコと化粧品

1986年に設立した健康科学研究所では、ヘルスサイエンスの視点から食品に限らず、美と健康を追及する様々な研究を推進してまいりました。約20年前から、スキンケア化粧品に使われる美肌成分の開発にも取り組んできました。世界約40カ国で化粧品原料として使われている α -アルブチンをはじめ、様々なスキンケア成分を開発した実績があります。

■グリコーゲンと肌

肌のうるおいやハリに欠かせないと言われているヒアルロン酸やコラーゲンは、加齢とともに減少することがわかっています。グリコーゲンもまた年齢を重ねるにつれ、減少すると言われていました。江崎グリコではグリコーゲンを研究のテーマに掲げる中で、そのことを検証し科学的に実証。健康な肌と深い関係があるのではと考え、新たな可能性を追求し続けています。

■そもそもグリコーゲンってどんなもの？

グリコーゲンはブドウ糖がたくさんつながった多糖類です。食品では牡蠣に豊富に含まれています。体内では骨格筋と肝臓に貯蓄され、ブドウ糖に変換されてエネルギー源となります。また、皮膚や脳、軟骨などにもグリコーゲンは存在しています。皮膚中には、ヒアルロン酸とほぼ同じ量のグリコーゲンが含まれています。

■グリコーゲンの研究から生まれたスキンケア成分“EAPグリコーゲン®”※(1)

新しいグリコーゲンを開発するため、バイオテクノロジーを駆使して、独自に2種類の酵素を開発。それらの酵素を使い、様々な実験を続けた結果、ついに2004年、酵素によるグリコーゲンの開発に成功しました。それがスキンケア成分初※(2)のEAPグリコーゲン®※(1)という美肌成分です。

■江崎グリコが独自に開発したスキンケア成分

天然由来のグリコーゲンは、大きさにばらつきがあり純度も一定ではありません。しかし、江崎グリコが独自に開発した酵素で作ったEAPグリコーゲン®※(1)は高純度、均一形状に設計されたナノサイズで、スキンケアに期待できるものでした。

新しいグリコーゲンであるEAPグリコーゲン®※(1)を開発した研究を支えたのは、長年の研究実績に裏付けられた世界トップレベルの酵素技術と糖質加工技術です。

■研究担当者コメント



健康科学研究所 チームリーダー 古屋敷隆（ふるやしき たかし）

EAPグリコーゲン®※(1)の開発は独自の酵素を使って合成するという今までにない方法だったので、製造法特許も取得しています。高純度で、均一形状、角質まで浸透するナノサイズのEAPグリコーゲン®※(1)とエイジングケアに大切な美肌成分を厳選し、徹底的に研究した結果、誕生したのが『g g』です。これからもグリコーゲンの新しい可能性を引き出す研究を続け、おいしさと健康、そして美容に貢献したいと思います。

※(1) 保湿成分。EAPグリコーゲン®とは、江崎グリコが独自に研究開発し、世界で初めて工業化に成功した高純度・均一形状でナノサイズのグリコーゲンです。これまでのグリコーゲンは牡蠣などの自然物から抽出していたため、由来によって純度・形状・サイズにばらつきがありました。今回配合したEAPグリコーゲン®は江崎グリコ独自の技術で植物由来原料から酵素を使って合成されたものです。EAPグリコーゲン（Enzymatically synthesized, Advanced, and Pure Glycogen の略）は江崎グリコの登録商標です

※(2) 江崎グリコが独自に研究開発した成分であり、スキンケアには初めての使用となります